



EDINET

Electronic Disclosure for Investors' NETwork

HTML ファイル作成に あたっての留意点

(EDINET による PDF ファイルの生成について)

2008 年 5 月 15 日

金融庁 総務企画局 企業開示課

Microsoft Corporation のガイドラインに従って画面写真を使用しています。

Microsoft, Excel, Windows, Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Adobe® product screen shots reprinted with permission from Adobe Systems Incorporated.

Adobe, Adobe Photoshop, Adobe Illustrator は、Adobe Systems Incorporated の登録商標または商標です。

その他、記載されている会社名および製品名は、各社の登録商標または商標です。

本文中では、TM、®、©は省略しています。

本文および添付のデータファイルで題材として使用している個人名、団体名、商品名、ロゴ、連絡先、メールアドレス、場所、出来事などは、すべて架空のものです。実在するものとは一切関係ありません。

本書に掲載されている内容は、2008年4月現在のものです、予告なく変更される可能性があります。

本書は、構成・文章・プログラム・画像・データ等のすべてにおいて、著作権法上の保護を受けています。本書の一部あるいは全部について、いかなる方法においても複写・複製等、著作権法上で規定された権利を侵害する行為を行うことは禁じられています。

はじめに 1

1 PDF ファイルについて	2
----------------	---

1 章 スタイルシートのクラス名 3

1 事象と対策	4
1-1 事象発生する HTML ファイル	5
1-2 事象発生しない HTML ファイル	6
1-3 事象発生する HTML ファイルより作成した PDF ファイル表示結果	7
1-4 事象発生しない HTML ファイルより作成した PDF ファイル表示結果	8

2 章 負の width 属性値 9

1 事象と対策	10
1-1 事象発生する HTML ファイル	11
1-2 事象発生しない HTML ファイル	11
1-3 事象発生する HTML ファイルより作成した PDF ファイル表示結果	12
1-4 事象発生しない HTML ファイルより作成した PDF ファイル表示結果	12

3 章 margin,padding 属性の利用 13

1 事象と対策	14
1-1 事象発生する HTML ファイル	16
1-2 事象発生しない HTML ファイル	17
1-3 事象発生する HTML ファイルより作成した PDF ファイル表示結果	18
1-4 事象発生しない HTML ファイルより作成した PDF ファイル表示結果	18

4 章 その他のスタイル:縦書き設定など 19

1 事象と対策	20
---------	----

本書について

本マニュアルでは、EDINET が提出された HTML ファイルから PDF ファイルの自動変換を行う際に、提出者が期待どおりの PDF ファイル生成結果を得られるよう、詳細かつ技術的な内容について説明しています。

本書の表記について

本書は以下の環境で作成されています。書類提出時の操作環境の詳細については『書類提出用 端末要件』をご覧ください。

クラシック表示に切り替えている場合は、画面の表示が異なります。また環境によっては、画面の表示が異なる場合や記載の機能が操作できない場合があります。

OS	Microsoft Windows XP SP2
ソフトウェア	Microsoft Internet Explorer 6.0 SP2 Adobe Reader 7.0

本書の記述について

本マニュアル内に記載されている記号は、以下のような意味があります。

表示	意味	表示	意味
POINT 	操作に関連するポイントについて説明しています。		画面の入力や選択する項目などをさします。
MEMO 	知っておいていただきたいことについて説明しています。		画面で表示された項目などをさします。
 重要	重要事項について説明しています。必ずお読みください。	{ }	画面の項目名をさします。 例：(EDINET コード)をクリックします。
[]	キーを押す操作をさします。 例：[F5] キーを押します。	[]	画面名をさします。 例：[提出者検索画面]が表示されます。

製品名の記載について

本書では、次の略称を使用しています。

名称	略称
Windows Vista	Windows Vista または Windows
Windows XP	Windows XP または Windows
Microsoft Office Excel 2007	Excel 2007 または Excel
Microsoft Office Excel 2003	Excel 2003 または Excel
Windows Internet Explorer 7	Internet Explorer 7 または Internet Explorer
Windows Internet Explorer 6	Internet Explorer 6 または Internet Explorer
Adobe Reader 7	Adobe Reader 7 または Adobe Reader
Adobe Reader 6	Adobe Reader 6 または Adobe Reader

はじめに

1 PDF ファイルについて

EDINET が、提出された書類から閲覧用に変換している PDF ファイルについて説明します。

EDINET では、提出された書類を印刷して利用する方等のために、提出書類の本文を PDF 形式に変換して提供しています。

PDF ファイルについては、特定ブラウザでの表示を PDF 化するのではなく、提出された書類 HTML ファイルの記載に従って PDF ファイルを作成しています。

このため、特定のブラウザでの表示と、その他のブラウザや PDF ファイルでの表示とが異なる場合があります。

本書では、これらの HTML ファイル作成にあたって特に留意すべき事項をまとめています。



EDINET

Electronic Disclosure for Investors' NETwork

1章

スタイルシートの クラス名

1 事象と対策

概要:

EDINET で利用できないクラス名を設定した場合、Internet Explorer ではクラス名を判別できますが、EDINET による PDF 変換ではクラス名を判別できず、Internet Explorer と PDF ファイルとで表示に差異が発生します。

原因と結果:

Internet Explorer では数字のみでもクラス名として認識されますが、Firefox などのブラウザや、EDINET による PDF 変換の際はクラス名として認識されません。このため、数字のみのクラス名を利用すると、HTML をブラウザで表示した場合と、EDINET で変換された PDF ファイルを表示した場合においてフォントサイズ等の表示が異なる場合があります。

対処方法:

数字のみのクラス名を、英字で始まるクラス名に置き換えます。
また、HTML ファイル作成時に数字のみのクラス名を設定しない HTML ファイルの作成を行うことで回避できます。たとえば、Microsoft Word で HTML ファイルを作成する場合、HTML ファイルを保存する際に以下の手順を実行することで回避できる場合があります。なお、個々のソフトウェアの設定方法については各ソフトウェアベンダにお問合せください。

「ファイル(F)」から「名前をつけて保存(A)」を選択します。

ファイルの種類から「Web ページ(フィルタ後)」を選択します。

「保存(S)」ボタンを押下します。

また、HTML ファイルに数字のみのクラス名が設定されているかは、一般に市販または公開されている、HTML の文法チェックツール等を用いて確認することもできます。

1-2 事象発生しないHTMLファイル

```

92 > position:relative;↓
93 > top:0pt;↓
94 > letter-spacing:0pt;↓
95 > font-emphasize:none;↓
96 > text-decoration:none;↓
97 p.SYUSEI75,li.SYUSEI75,div.SYUSEI75↓
98 {↓
99 > margin:0pt;↓
100 > margin-bottom:.0001pt;↓
101 > line-height:8.5pt;↓
102 > layout-grid-mode:char;↓
103 > text-autospace:none;↓
104 > font-size:7.5pt}↓
105 p,a,li,a,div,a↓
106 {↓
107 > margin:0pt;↓

```

**事象発生しないHTMLファイル
スタイル設定部**

クラス名を変更します。(数字の
前に SYUSEI を付加)

```

167 ↓
168 {h2> 1【中間連結財務諸表等】</h2>↓
169 ↓
170 <h3>(1)【中間連結財務諸表】</h3>↓
171 ↓
172 <h4>①【中間連結貸借対照表】</h4>↓
173 ↓
174 <table class=MsoNormalTable border=0 cellspacing=0 cellpadding=0↓
175 style="border-collapse:collapse;"↓
176 <tr style="page-break:inside:avoid;height:34.0pt"↓
177 <td width=121 style="width:91.0pt;border:solid windowtext 1.0pt;padding:0pt 0pt 0pt 0pt;height:34.0pt">↓
178 p class=SYUSEI75 align=center style="text-align:center">&nbsp;</p>↓
179 </td>↓
180 <td width=31 style="width:23.5pt;border:solid windowtext 1.0pt;border-left:↓
181 none;↓
182 padding:0pt 0pt 0pt 0pt;height:34.0pt">↓
183 p class=SYUSEI75 align=center style="text-align:center">&nbsp;</p>↓
184 </td>↓
185 <td width=159 colspan=3 style="width:119.25pt;border:solid windowtext 1.0pt;↓
186 border-left:none;padding:0pt 0pt 0pt 0pt;height:34.0pt">↓
187 p class=SYUSEI75 align=center style="text-align:center">前中間連結会計期間末</p>↓
188 p class=SYUSEI75 align=center style="text-align:center">(平成18年12月31日)</p>↓
189 </td>↓
190 <td width=159 colspan=3 style="width:119.25pt;border:solid windowtext 1.0pt;↓
191 border-left:none;padding:0pt 0pt 0pt 0pt;height:34.0pt">↓
192 p class=SYUSEI75 align=center style="text-align:center">当中間連結会計期間末</p>↓
193 p class=SYUSEI75 align=center style="text-align:center">(平成19年12月31日)</p>↓
194 </td>↓
195 <td width=159 colspan=3 style="width:119.25pt;border:solid windowtext 1.0pt;↓
196 border-left:none;padding:0pt 0pt 0pt 0pt;height:34.0pt">↓
197 p class=SYUSEI75 align=center style="text-align:center">前連結会計年度の</p>↓
198 p class=SYUSEI75 align=center style="text-align:center">要約連結貸借対照表</p>↓
199 p class=SYUSEI75 align=center style="text-align:center">(平成19年6月30日)</p>↓

```

**事象発生しないHTMLファイル
テーブル部**

変更したクラス名(「SYUSEI75」)を
設定します。

- 6 -

1-3 事象発生する HTML ファイルより作成した PDF ファイル表示結果

1 【中間連結財務諸表等】

(1) 【中間連結財務諸表】

① 【中間連結貸借対照表】

区分	注記 番号	前中間連結会計期間末 (平成18年12月31日)		当中間連結会計期間末 (平成19年12月31日)		前連結会計年度の 要約連結貸借対照表 (平成19年6月30日)	
		金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)
(資産の部)							
I 流動資産							
1. 現金及び預金	※2	■■■■					
2. 売掛金		■■■■					
3. 未収入金		■■■					
4. 営業立替金		■■■■					
5. たな卸		■■■■					

クラス名が判別できないため、クラスに設定したフォントサイズ等の内容が反映されません。

1-4 事象発生しない HTML ファイル より作成した PDF ファイル表示結果

1 【中間連結財務諸表等】

(1) 【中間連結財務諸表】

① 【中間連結貸借対照表】

区分	注記 番号	前中間連結会計期間末 (平成18年12月31日)		当中間連結会計期間末 (平成19年12月31日)		前連結会計年度の 要約連結貸借対照表 (平成19年6月30日)	
		金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)
(資産の部)							
I 流動資産							
1. 現金及び預金	※2	■■■■		■■■■		■■■■	
2. 売掛金		■■■■		■■■■		■■■■	
3. 未収入金		■■		■■■■		■■■■	
4. 営業立替金		■■■■		■■■■		■■■■	
5. たな卸資産		■■■■					
6. その他		■■■■					
貸倒引当金		■■■■					
流動資産合計		■■■■	■■■■	■■■■	■■■■	■■■■	■■■■

クラス名を判別できるようになり、クラスに設定したフォントサイズ等の内容が正しく反映されます。



EDINET

Electronic Disclosure for Investors' NETwork

2章

負の width 属性値

1 事象と対策

概要：

表の幅を設定する際に、EDINET が判別できない負の値を設定された場合、Internet Explorer では表の幅を設定していないものとして扱いますが、EDINET による PDF 変換ではゼロと読み替えるため、Internet Explorer と PDF ファイルとで表示に差異が発生します。

原因と結果：

スタイルシートを利用する場合において、表示領域の幅を設定する width 属性にマイナス値が設定された場合はブラウザにより表示方法が異なります。Internet Explorer では、マイナスの属性を無視し、親要素に設定された width 値を継承します。EDINET による PDF 変換においては、負の値を設定された場合、ゼロと読み替えます。その結果、HTML ファイルをブラウザで表示した場合と、EDINET で変換された PDF ファイルでの表の幅が異なる場合があります。

対処方法：

表の幅をマイナスとする設定は EDINET では不要であるため、width 属性の設定を削除します。

また、このような設定を回避するには HTML ファイル作成時にマイナス値を設定しない HTML ファイルの作成を行います。たとえば、Microsoft Word で HTML ファイルを作成する場合、HTML ファイルを保存する際に以下の手順を実行することで回避できる場合があります。なお、個々のソフトウェアの設定方法については各ソフトウェアベンダにお問合せください。

「ファイル(F)」から「名前をつけて保存(A)」を選択します。

ファイルの種類から「Web ページ(フィルタ後)」を選択します。

「保存(S)」ボタンを押下します。

また、作成した HTML ファイルの width 属性にマイナス値が設定されているかは、一般に市販または公開されている、HTML の文法チェックツール等を用いて確認することもできます。

1-1 事象発生する HTML ファイル

```

205 <td valign="top" style="border-width:0.75pt 0.75pt 0.75pt 0.75pt;">↓
206 <div class="tbl" style="margin-left:3.75pt;margin-right:3.75pt;">↓
207 <table style="width:-52.5pt;border-width:0pt 0pt 0pt 0pt;">↓
208 <colgroup>↓
209 <col style="width:-52.5pt;">↓
210 </colgroup>↓
211 <tbody>↓
212 <tr style="height:13.5pt;">↓
213 <td valign="top" style="border-width:0pt 0pt 0pt 0pt;">↓
214 <div class="txt" lang="ja" style="text-align:left;font-size:7.5pt;line-hei
215 </td>↓
216 </tr>↓

```

事象発生するHTMLファイル

width 属性にマイナスの値(「-52.5pt」)を設定しています。

1-2 事象発生しない HTML ファイル

```

204 </td>↓
205 <td valign="top" style="border-width:0.75pt 0.75pt 0.75pt 0.75pt;">↓
206 <div class="tbl" style="margin-left:3.75pt;margin-right:3.75pt;">↓
207 <table style="border-width:0pt 0pt 0pt 0pt;">↓
208 <tbody>↓
209 <tr style="height:13.5pt;">↓
210 <td valign="top" style="border-width:0pt 0pt 0pt 0pt;">↓
211 <div class="txt" lang="ja" style="text-align:left;font-size:7.5pt;line-hei
212 </td>↓
213 </tr>↓
214 <tr style="height:13.5pt;">↓
215 <td valign="top" style="border-width:0pt 0pt 0pt 0pt;">↓
216 <div class="txt" lang="ja" style="text-align:left;font-size:7.5pt;line-hei
217 </td>↓
218 </tr>↓

```

事象発生しないHTMLファイル

マイナスの値を削除します。



EDINET

Electronic Disclosure for Investors' NETwork

3章

margin,padding 属性の 利用

1 事象と対策

概要:

文字表示範囲を広げた場合に、Internet Explorer では設定したとおりに表示範囲が広がらないが、EDINET による PDF 変換では範囲が広がり、Internet Explorer と PDF ファイルとで表示に差異が発生する設定方法があります。

原因と結果:

Internet Explorer では padding 属性(表示領域を拡張する)を設定した要素に、width 属性:100%を設定した場合、padding 属性で拡張した領域分は文字の記載領域となりませんが、Firefox などのブラウザや、EDINET による PDF 変換では、padding 属性で拡張した領域分も文字の記載領域として確保されます。

その結果、HTML ファイルをブラウザで表示した場合と、EDINET で変換された PDF ファイルを表示した場合において、文字の表示範囲が異なる場合があります。

次ページに具体例にて記載します。

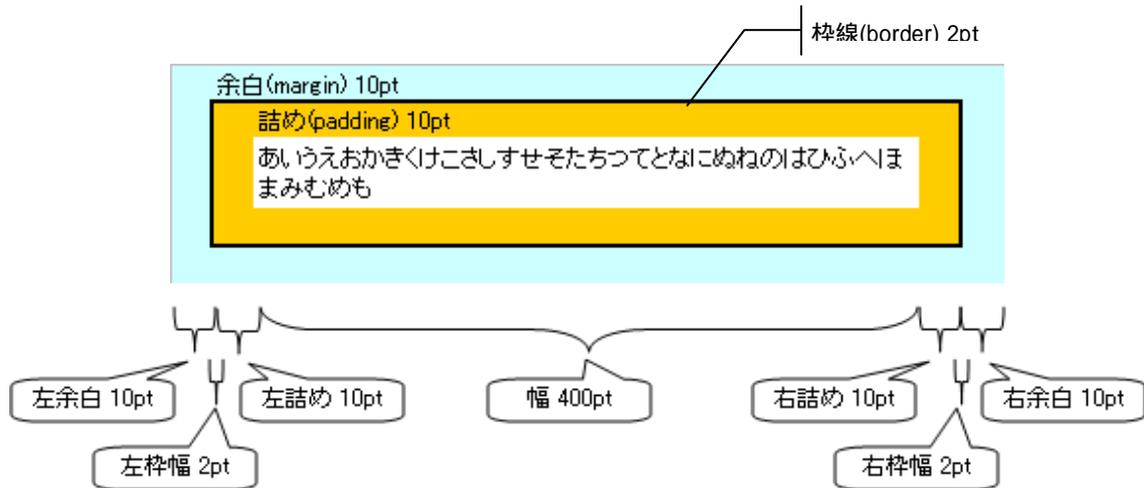
対処方法:

width 値を、比率ではなく実数で設定します。

例 1) padding による領域拡張:td タグ

```
<td style="width:400pt; margin:10pt; padding:10pt; border 2pt solid #CCCCCC;">あいうえ  
お</td>
```

このタグは下記のように解析され表示されます。



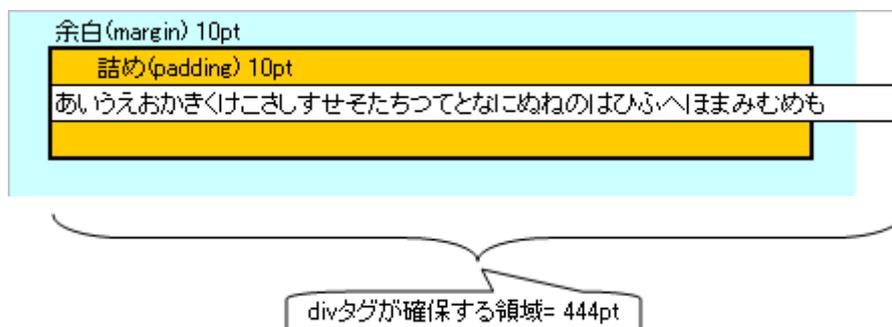
このように、TD 全体の横幅は width で確保した領域(400pt) を超えて、**444pt** となります。

$$\begin{aligned}
 \text{横幅} &= \text{左余白} + \text{左枠幅} + \text{左詰め} + \text{幅} + \text{右詰め} + \text{右枠幅} + \text{右余白} \\
 &= 10 + 2 + 10 + 400 + 10 + 2 + 10 \\
 &= 444\text{pt}
 \end{aligned}$$

例 2) width:100%設定による文字はみだし:例 1 の td タグ中の div タグ

```
<td style="width:400pt; margin:10pt; padding:10pt; border 2pt solid #CCCCCC;">  
<div style="width:100%">あいうえおかきくけこさしすせそたちつてとなにぬねのはひふへほま  
みむめも</div></td>
```

このタグは下記の様に解析されます。



この場合、div タグ における width:100% とは、padding や margin を含めた横幅の 100%という意味であり、継承している親要素(td)の横幅が 444pt のため、表示を予定している幅(400pt)をはみ出します。

なお、div 要素自体に padding や margin が設定されている場合も同様に解析され、表示を予定している幅をはみ出します。

1-1 事象発生する HTML ファイル

```
688 [↓
689 text-align:justify;↓
690 ]↓
691 ↓
692 </style>↓
693 </head>↓
694 <body>↓
695 <div style="width:483.9pt">↓
696 <p style="page-break-before:always; line-height:0px" >↓
697 <h5 class="tde_head4" style="padding-left:9.95pt; line-height
698 中間財務諸表作成のための基本となる重要な事項</h5>↓
699 <p class="tde_text6" style="line-height:9.5pt">↓
700 </p>↓
701 <table cellspacing="0" cellpadding="0" summary="table" style="bor
702 <tr style="height:33.8pt">↓
703 <td valign="middle" style="width:105.8pt; border-top:soli
704 <div class="tde_tblC" style="width:100%">↓
705 項目</div>↓
706 </td>↓
707 <td valign="middle" style="width:120.8pt; border-top:soli
708 <div class="tde_tblC" style="width:100%">↓
709 前中間会計期間</div>↓
710 <div class="tde_tblC" style="width:100%; padding-right
711 (自 平成18年 7月 1日 /div>↓
712 <div class="tde_tblC" style="width:100%; padding-left
713 至 平成18年12月31日) /div>↓
714 </td>↓
715 <td valign="middle" style="width:120.8pt; border-top:soli
716 <div class="tde_tblC" style="width:100%">↓
717 当中間会計期間</div>↓
718 <div class="tde_tblC" style="width:100%; padding-right
719 (自 平成19年 7月 1日 /div>↓
720 <div class="tde_tblC" style="width:100%; padding-left
721 至 平成19年12月31日) /div>↓
722 </td>↓
723 <td valign="middle" style="width:120.8pt; border-top:soli
724 <div class="tde_tblC" style="width:100%">↓
725 前事業年度</div>↓
```

事象発生するHTMLファイル

padding 属性を設定した div 要素の width 属性に 100%を設定しています。

1-2 事象発生しない HTML ファイル

```

689 text-align:justify;↓
690 }↓
691 ↓
692 </style>↓
693 </head>↓
694 <body>↓
695   <div style="width:483.9pt">↓
696     <p style="page-break-before:always; line-height:0px">↓
697       <h5 class="tde_head4" style="padding-left:9.95pt; line-height:16p
698         中間財務諸表作成のための基本となる重要な事項</h5>↓
699       <p class="tde_text6" style="line-height:9.5pt">↓
700       </p>↓
701       <table cellspacing="0" cellpadding="0" summary="table" style="border-
702         <colgroup>↓
703         <col style="width:105.8pt;">↓
704         <col style="width:120.8pt;">↓
705         <col style="width:120.8pt;">↓
706         <col style="width:120.8pt;">↓
707         </colgroup>↓
708         <tr style="height:33.8pt">↓
709           <td valign="middle" style=" border-top:solid 0.5pt; border-bc
710             <div class="tde_tblC">↓
711             項目</div>↓
712           </td>↓
713           <td valign="middle" style=" border-top:solid 0.5pt; border-bc
714             <div class="tde_tblC">↓
715             前中間会計期間</div>↓
716             <div class="tde_tblC" style=" padding-right:4.5pt">↓
717             (自 平成18年 7月 1日</div>↓
718             <div class="tde_tblC" style=" padding-left:4.5pt">↓
719             至 平成18年12月31日)</div>↓
720           </td>↓
721           <td valign="middle" style=" border-top:solid 0.5pt; border-bc
722             <div class="tde_tblC">↓
723             当中間会計期間</div>↓
724             <div class="tde_tblC" style=" padding-right:4.5pt">↓
725             (自 平成19年 7月 1日</div>↓
726             <div class="tde_tblC" style=" padding-left:4.5pt">↓

```

事象発生しないHTMLファイル

div 要素から width 属性を削除し、列ごとに実数で width 属性を設定します。

1-3 事象発生する HTML ファイルより作成した PDF ファイル表示結果

中間財務諸表作成のための基本となる重要な事項

項目	前中間会計期間 (自 平成18年7月1日 至 平成18年12月31日)	当中間会計期間 (自 平成19年7月1日 至 平成19年12月31日)	前事業年度 (自 平成18年7月1日 至 平成19年6月30日)
1 資産の評価基準及び評価方法	有価証券 満期保有目的の債券 償却原価法(定額法)を採用しております。 子会社株式 移動平均法による原価法を採用しております。	(1) 有価証券 満期保有目的の債券 同左 子会社株式 同左	(1) 有価証券 満期保有目的の債券 同左 子会社株式 同左

1-4 事象発生しない HTML ファイルより作成した PDF ファイル表示結果

中間財務諸表作成のための基本となる重要な事項

項目	前中間会計期間 (自 平成18年7月1日 至 平成18年12月31日)	当中間会計期間 (自 平成19年7月1日 至 平成19年12月31日)	前事業年度 (自 平成18年7月1日 至 平成19年6月30日)
1 資産の評価基準及び評価方法	(1) 有価証券 満期保有目的の債券 償却原価法(定額法)を採用しております。 子会社株式 移動平均法による原価法を採用しております。	(1) 有価証券 満期保有目的の債券 同左 子会社株式 同左	(1) 有価証券 満期保有目的の債券 同左 子会社株式 同左



EDINET

Electronic Disclosure for Investors' NETwork

4章

その他のスタイル： 縦書き設定など

1 事象と対策

概要:

ブラウザが独自実装している機能は EDINET による PDF 変換では利用できません。

原因と結果:

Internet Explorer では writing-mode 属性を利用して縦書きを設定することができますが、Firefox などその他のブラウザや、EDINET による PDF 変換では、属性を判別できないため、当該設定は反映されません。

その結果、HTML ファイルをブラウザで表示した場合と、EDINET で変換された PDF ファイルを表示した場合において、縦書き・横書き表示などが異なる場合があります。

対処方法:

縦書き表示については、1文字ずつ改行することで表現できます。

その他にブラウザが独自実装している機能については、HTML ファイル作成時に独自機能を利用しない設定により、HTML ファイルの保存を行うことで回避できます。たとえば、Microsoft Word で HTML ファイルを作成する場合、HTML ファイルを保存する際に以下の手順を実行することで回避できる場合があります。なお、個々のソフトウェアの設定方法については各ソフトウェアベンダにお問合せください。

「ファイル(F)」から「名前をつけて保存(A)」を選択します。

ファイルの種類から「Web ページ(フィルタ後)」を選択します。

「保存(S)」ボタンを押下します。

また、作成した HTML ファイルに独自機能が設定されているかは、一般に市販または公開されている、HTML の文法チェックツール等を用いて確認することもできます。